

高等学校 自立活動 学習指導案

日 時	平成**年 * 月 * 日 (*) 3 校時 10 : 45 ~ 11 : 30	場 所	面談室 3
指導者	〇〇		
単元名	相手の気持ちを考えよう (他者の意図や感情の理解に関すること)		
単元設定の理由	<p>本生徒は、自閉症の診断があり、聴覚過敏のため通常は耳栓を着用して生活している。日常生活に関しては、入学当初は慣れない環境に戸惑い、不安な表情をしていることも多かったが、少しずつ周囲の人や環境に慣れ落ちて生活することができるようになってきた。コミュニケーション面には課題があり、慣れない場所や人に対しては、緊張して声が出づらくなってしまい応答が難しくなってしまうたり、慣れてくると、相手の気持ちや状況を考えずに一方的に話をしてしまったりする。また、広い空間で視覚的な情報の多い教室では、集中力が続かず会話をすることが難しいことがある。そのため大切な話は、なるべく視覚的な情報が少ない教室で教師と 1 対 1 で指導をする必要がある。本生徒は、高等学校卒業後は就労を希望しているため、人間関係を良好に築くためのスキルを身に付けることは必要不可欠である。自分自身でも、コミュニケーション面に課題があることは意識しており、毎日あいさつの練習をしたり、職員室に入る練習をしたりと意欲的に課題克服に向けて取り組んでいる。</p> <p>本単元では、ロールプレイを取り入れることで、生徒に身近な設定の中で、自分の態度や表情が相手にどのような印象を与えるかに気づくようにする。また、「こんな時どうする？」などのソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、状況に応じて適切な言動を考えることで、基本的なコミュニケーションスキルを学んでいくことを目的としている。「相手の表情を読み取ろう」では、表情カードや顔写真を用いて、感情のマッチングを行う学習をすることで、人には色々な気持ちがあることを知り、相手の表情や気持ちに興味をもつことができるようにする。</p> <p>指導にあたっては、どのような態度ならば相手が「また話したい」と思うかを考え、ポイントをまとめながら、ロールプレイで実践してみることで、適切な言動の習得ができるようにしたい。本人の願いは、「友達を作りたい」ということではあるが、「友達の表情を気にしたことがない」「表情を見ても何を考えているのかよく分からない」などの発言もある。このことからまずは感情を表す言葉を知ること、抽象的なイラストで表情の特徴をつかむこと、イラストと実際の顔が一致できるようにすることなど段階を踏んで指導し、本人が相手に興味をもつことができるようにしていく。また、日常生活の中で相手の表情や態度に注目して、話しかけるタイミングや内容を図ることができることも大切なスキルである。プライベートな質問と世間話の話題を分類する活動をすることで、上手に話題選びをして相手に話しかけることのできる会話スキルを身に付けるための基礎になるように指導する。</p>		
単元の目標	<p>○自分の態度や表情が相手に与える印象について考え、適切な態度を身に付けることができる。【3-3】</p> <p>○相手の表情から気持ちを適切に読み取ることができる。【6-2】</p> <p>○自分の気持ちを適切な言葉で相手に伝えることができる。【6-2】</p>		
指導計画 (6 時間扱い)	<p>第 1 次 コミュニケーションの基本を身に付けよう！ I ～非言語コミュニケーション・言語コミュニケーション～</p> <p>第 1 時 人の話を聞く姿勢～対人マナー～</p> <p>第 2 時 印象について考えよう～表情・態度編～</p>		

第3時	相手の表情を読み取ろう
第4時	相手の気持ちを考えよう〔本時〕
第5時	自分の気持ちを伝えよう
第6時	話題選びをしよう

【本時の指導】

1 展開

時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て
2	1 学習内容を知る。 相手の気持ちを考えよう	・ワークシートを使用することで、本時の流れを本人が視覚的に確認できるようにする。
5	2 あいさつの練習をする。 (1)「おあしす」をあいさつのポイントに気をつけて練習する。 ●「おあしす」 おはようございます。 ありがとうございます。 失礼します。 すみませんでした。 ○ポイント ①身だしなみ ②姿勢 ③声の大きさ ④表情	・鏡の前に立つように促し、自分で姿勢や表情を確認しながら練習に取り組むことができるようにする。 ・壁にお辞儀の角度を示し、お辞儀をするときの目安になるようにする。 ・模範を示し、本人が発声するときの声の大きさの目安にできるようにする。 【評価】姿勢や表情のポイントが分かり、自分で意識して練習に取り組むことができたか。(観察)
7	3 前回の復習をする。 (1)絵カード、顔写真、感情カードの3つを確認する。 ○感情カード ①怒る ②嬉しい ③悲しい ④困る ⑤驚く ⑥落ち込む	・絵カードを使用して感情の振り返りをするすることで、感情を予想する際の表情のポイントを思い出す手がかりとする。 ・あらかじめ6つの感情カードを用意しておくことで、人の顔を見て感情を分類できるようにする。
25	4 「こんな時どんな気持ち？」ゲームをする。 (1)ルールを知る。 模範を見る。 ①場面設定を知る。 ②相手の表情がどんな気持ちか考える。 ③相手の気持ちに合った言葉かけを考える。 ④ロールプレイをする。 (2)自分の考えをワークシートに記入する。 (3)ロールプレイで実践する。 ①A役〔生徒〕, B役〔教師〕 ②A役〔教師〕, B役〔生徒〕	・教師が例文を読み上げて、その時それぞれの感情を表す顔写真を提示しながら一緒に考えることで、ルールが分かり、生徒がスムーズに実践に移ることができるようにする。 ・生徒に身近な事例を取り上げることで、各感情をイメージすることができるようにする。 ・自分の考えを言葉にして書くことが難しい時には、例文や選択肢を提示することで、ワークシートにまとめる手がかりとする。 ・ロールプレイを取り入れることで、日常生活の場面を想像することができるようにする。 ・ロールプレイの際には、A役とB役をどちらも演じ、表情や言い方なども一緒に確認することで、言葉かけの内容以外にも大切なことがあることに気づくことができるようにする。

		<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の表情から気持ちを予想して、自分なりの言葉かけを考えてワークシートにまとめることができたか。(ワークシート) ・考えた言葉かけを、ロールプレイで実践することができたか。(観察)
3	5 まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使用しながら確認することで、本時の流れを振り返ることができるようにする。
3	6 次時の予告をする。 (1) 面談日を確認する。 (2) 学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーを見ながら次回の面談日をワークシートに記入することで、見通しをもつことができるようにする。 ・学習内容を説明することで、次時への期待をもつことができるようにする。

2 準備物

ワークシート, 鏡, お辞儀の角度テープ, 感情カード, 絵カード, 6つの感情の顔写真